

4.8 沖繩に向けてせらなる民主化の歩む

日本民主青年同盟 日大 班

すべての学友のみなさん

新学期をむかえた今、「自分の望んでいた大学とは一体このよつなものだ。たのしみ」自分は将来どのように生きてゆくのか——そのためには大学生生活いかにすごすべきか」といつことを自己に向いかけてみることでとりわけ重要であると思ひます。

日本大学における勉学条件は極端に貧弱で、また私たちが学生や教職員の民主的権利は一切保障されておらず、矛盾が渦まき、とても明るくない学園となっています。

それらは一昨年の斗争のなかで、全学友の力により鋭く追求されたが、今だ基本的にはほとんど解決されていません。理工学部大学当局は頻りにロックアウトを行ない、学生の自主的活動をすべて踏みつぶそうと露骨な攻撃を二層強めています。

日本の学校教育をめぐる情勢

中教審は一月、大学教育に関する中間報告を発表し、更に四月中にも教員全体を「改革」する答申が出されようとしています。一月答申は大学を目的別に差別し、「削かれた大学」の美名で、財界と反動の要求する「合理的」な大学づくりをねらっています。さらに重大な事は「中間報告」の反動的策動を「国民的合意」の名の下に押し進めようとしていることです。大学の民主化に敵対し、豊泰、教育基本法をふみにして、大学を独占資本の工場化し、「七〇年安保大学」、「理国主義的研究体制」づくりを企てた「中間報告」に反対し、クラス・サークル活動をつづけて大学民主化の「国民的合意」を獲得しよう。

① クラス会を活発に行ない、コンパ、ハイキングなどはクラスの懇談を深めよう。クラスの運営体制が整っていないクラスでは、幹事、クラス委員、議長などを早急に決めよう。

② セミ活動、サークル活動を活発にしよう。

専門分野での活動を重視し、各学科を基礎にゼミナール活動を行なおう。また、さまざまはサークルに参加し、発展させ、豊かな学園生活を築こう。

③ 授業内容改善、勉学条件改善の闘いに立ち上がる。

クラス、学科ごとに要求をまとめ、闘いを進めるとともにすべての学友に訴え、その団結の力で勝ちとろう。

④ くりかえして改革に着手しよう。

四月二十八日（沖繩）や六、二二（安保条約「固定期限」終了日）などの全人民的課題に対して各クラスで討論をかね、クラス会議などの形で態度を決定しよう。

この重要な社会問題に対し態度を表明することは、社会の構成員としての義務であると同時に、日大の理事らと財界、政府とのゆ着を見るならば、日大の民主化の闘いを進めるうえで非常に重要であることがわかる。

さまざま要求や民主的権利を勝ちとるには何と云つても民主的學生自治会を再建し、すべての学友がそこに集結して闘うことが大切です。先上げた活動を進めるとともに、學生自治会再建へ向けにさらに努力しよう。

沖繩の現実を真見よう

四月二十八日——この日は、今から十七年前（一九五二年）サンフランシスコ「平和」条約によって沖繩がアメリカに売り渡された屈辱の日です。「その二度目の事故（B-57の墜落）のニュースを校内放送で聞いた時、目の前が真暗になる思いでした。ニュースをいっしょに聞いていた友人は「ああもうこんな社会になんか生きていくくない」と叫びだして、いました。この友人の言葉を身にした時、私はある不安が全身をおそったのを感しました。この状態が続けば国民の心は腐敗していき、人間性が失われ、人権を無視され、生存権までもふみにじられようとしています。そのように苦しい条件の下でも沖繩の国民は、あと二ヵ月後にせまった安保条約「固定期限」終期を前にして、安保放棄、沖繩の「即時、無条件、全面返還」の闘いに力強く立ち上がっています。

すべての学友のみなさん

私たちが日大民主化のたたかいを一歩一歩でも前進させることは、大学の反動化政策に対し鋭いくさびを打ちこむことを意味すると、もに、私大総協の反動的「とりで」を崩壊させることです。私たち民主青年同盟は學生自治会の再建と日大民主化のために全力をあげて闘うことをここに表明し、またみなさんの決意を訴えます。また四月二十八日には、安保放棄、沖繩の全面返還のために、日大民主化の闘いと結合させ、にたかいましよう。